

侵略的外来種リスト個別の種に関する各学会からの意見<動物>への対応案（概要）

<哺乳類>

	意見	対応状況と対応案
1	<リストへの追加> ◆リストに追加すべき種類が提案された。 <国内由来の外來種>タヌキ (日本甲虫学会)	情報を収集、整理しリストに追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。
2	<定着状況・分布に関する情報> ◆定着状況の評価・分布に関する情報の提供指摘があった。 タイワンザル (霊長類学会)	指摘・情報を反映させました。
3	<侵略性等に関する情報、記載事項の修正・追加について> ◆侵略性等に関する情報の提供や、内容の修正・追加が指摘された。 タイワンザル、アカゲザル、シマリス、アライグマ、アメリカミンク、ファイリマンゲース、アキシスジカ属、 (日本哺乳類学会、霊長類学会)	指摘・情報を反映させました。
4	<種名の修正> アカゲザル、アメリカミンク (日本哺乳類学会、霊長類学会)	指摘・情報を反映させました。
5	<具体的情報の提供について> ◆具体的情報が提供された。 キタリス (日本哺乳類学会)	リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載しますので、その際の参考とします。
6	<掲載種(案)以外の種の情報提供> ジャコウネズミ属、ナミハリネズミ、ハリネズミ科の一種 <i>Ericaceus europaeus</i> 、フクロギツネの一種 <i>Trichosurus vulpecula</i> 、キタキツネ、ヤクシマザル (日本哺乳類学会)	寄せられた情報を含め判断をしたところ、現時点では日本で侵略的になる可能性が高いという情報は特に得られなかったため、掲載種(案)には含めませんでした。

<鳥類>

	意見	対応状況と対応案
1	<リストへの追加> ◆リストに追加すべき種類が提案された。 コブハクチョウ	情報を収集、整理しリストに追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。

2	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。 アイガモ、アヒル</p>	<p>情報を収集・整理しましたが、特に侵略性が高いとの判断はできなかったため、掲載種（案）には含めませんでした。</p>
2	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。 オオハクチョウ（疾病放鳥個体）</p>	<p>ご指摘の事例は今回のリストの検討対象外となるものですので、掲載種（案）には含めませんでした。</p>

（以上、すべて日本鳥学会からの意見）

<爬虫類>

	意見	対応状況と対応案
1	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。 要注外来生物に指定されているカメ類（<i>Apalone spp.</i>, <i>Graptemys spp.</i>, <i>Pseudemys spp.</i>, ハナガメ）</p>	<p>情報を収集・整理しリストに追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。</p>
2	<p><定着状況・分布に関する情報></p> <p>◆定着状況の評価・分布に関する情報の提供・指摘があった。 ホオグロヤモリ</p>	<p>指摘・情報を反映させました。</p>
3	<p><侵略性等に関する情報、記載事項の修正・追加について></p> <p>◆侵略性等に関する情報の提供や、内容の修正・追加が指摘された。 セマルハコガメ、ミナミオオガシラ、オキナワキノボリトカゲ、ニホントカゲ、 （日本哺乳類学会、霊長類学会）</p>	<p>指摘・情報を参考にし、記載に反映させました。</p>
4	<p><種名の修正></p> <p>◆正しい学名についての情報提供・指摘があった。 ワニガメ、ニホンスッポン</p>	<p>指摘・情報を反映させました。</p>
5	<p><掲載種（案）以外の種の情報提供></p> <p>インドニシキヘビ、ビルマニシキヘビ、ヤエヤマシガメ、ミナミヤモリ</p>	<p>寄せられた情報を含め判断をしたところ、左記の種類は現時点では日本で侵略的になる可能性が高いという情報は特に得られなかったため、掲載種（案）には含めませんでした。</p>

<両生類>

	意見	対応状況と対応案
1	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。 ニホンヒキガエル（伊豆諸島）</p>	<p>情報を収集、整理しリストに追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。</p>
2	<p><定着状況・分布に関する情報></p> <p>◆定着状況の評価・分布に関する情報の提供・指摘があった。 ヌマガエル</p>	<p>指摘・情報を反映させました。</p>
3	<p><侵略性等に関する情報、記載事項の修正・追加について></p> <p>◆侵略性等に関する情報の提供や、内容の修正・追加が指摘された。 <i>Eleutherodactylus planirostris</i>、アフリカツメガエル、オキナワキノボリトカゲ、ニホントカゲ、 （日本哺乳類学会、霊長類学会）</p>	<p>指摘・情報を参考にし、記載に反映させました。</p>
4	<p><種名の修正></p> <p>◆正しい学名についての情報提供・指摘があった。 キンイロヒキガエル</p>	<p>指摘・情報を反映させました。</p>
5	<p><掲載種（案）以外の種の情報提供></p> <p>トウキョウダルマガエル</p>	<p>寄せられた情報を含め判断をしたところ、左記の種類は現時点では日本で侵略的になる可能性が高いという情報は特に得られなかったため、掲載種（案）には含めませんでした。</p>

<魚類>

	意見	対応状況と対応案
1	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。 ガー類、コクレン、ハクレン、パールダニオ、ゼブラダニオ、アカヒレ、スノープレコ、アマゾンセイルフィンキャットフィッシュ、レイクトラウト、ペヘレイ、ソードテール、コンヴィクトシクリッド、ホンモロコ（国内由来の外来種）</p>	<p>情報を収集、整理しリストに追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。</p>
2	<p><リストへの追加></p> <p>◆国内由来の外来種でリストに追加すべき種類が提案された。 ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギギ、ワカサギ、アユ、イワナ、サクラマス、サツキマス、オヤニラミ</p>	<p>情報を収集・整理しましたが、これらの種類については特に侵略性が高いとの判断はできませんでした。特にこうした国内外来種の問題については外来種被害防止行動計画も通じて注意喚起に</p>

		進めます。
3	<p><定着状況・分布について></p> <p>◆定着状況の評価・分布に関する情報が提供された。 タイリクバラタナゴ、ソウギョ、アオウオ、カラドジョウ、ウ オーキングキャットフィッシュ、インディアンガラスフィッシ ュ、ブルーギル、オオクチバス、ブルーティラピア、ナイルテ ィラピア、カムルチー、コウタイ、タイワンドジョウ</p>	指摘・情報を反映させまし た。
4	<p><種名の修正></p> <p>◆正しい学名についての情報提供・指摘があった。 マダラロリカリア、コクチバス、ソードテール</p>	指摘・情報を反映させまし た。
5	<p><対象種以外></p> <p>◆対象種以外へも意見や情報の提供があった。 オトファリンクス・リトバテス、チョウセンブナ</p>	寄せられた情報を含め判断 をしたところ、現時点では日 本で侵略的になる可能性が 高いという情報は特に得ら れなかったため、掲載種(案) には含めませんでした。

以上、すべて日本魚類学会からの意見。

<昆虫類>

	意見	対応状況と対応案
1	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。 <国内由来の外来種>カブトムシ本土亜種、リュウキュウツヤ ハナムグリ (日本甲虫学会)</p>	情報を収集、整理しリストに 追加しました。リスト掲載種 の付加情報の公表時には、さ らに具体的な内容を記載し ます。
2	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。 <国外由来の外来種>ヤエヤマニセツツマグソコガネ<国内 由来の外来種等>アオドウガネ、キボシカミキリ名義タイプ亜 種、キボシカミキリ南西諸島亜種群 (日本応用動物昆虫学会、日本甲虫学会)</p>	情報を収集・整理しまし たが、特に侵略性が高いとの判 断はできなかったため、掲載 種(案)には含めませんでした。
3	<p><定着状況・分布について></p> <p>◆定着状況の評価・分布に関する情報が提供された。 ツマアカスズメバチ、タイワントケクマバチ、 (日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会)</p>	指摘を検討しましたが、本リ ストの整理法に則り、修正は 行いませんでした。
4	<p><具体的情報の提供・記載方法の提案について></p> <p>◆具体的情報の提供・記載方法の提案がなされた。 クワガタムシ科(科のレベルとは別に種レベルでも示すことを 提案)、セイヨウオオマルハナバチ(逃亡防止システムの紹介)、 カブトムシの扱いについて (日本応用動物昆虫学会・日本甲虫学会)</p>	新たな情報や記載の示し方 についての提案を頂きました。 リスト掲載種の付加情報 の公表時には、さらに具体的 な内容を記載しますので、そ の際の参考とします。

5	<p><掲載種（案）以外の種の情報提供></p> <p>◆対象種以外へも意見や情報の提供があった。</p> <p>ヒノキアブラムシ、<i>Chrysoperla carnea</i>、ムネアカハラビロカマキリ <i>Hierudula</i> sp.もしくはタイリクハラビロカマキリ <i>H. membranacea</i>、ビワコブオオアブラムシ、シタバニハゴロモ、バナナコナカイガラムシ、クロテンコナカイガラムシ、ニセナスコナカイガラムシ、ヒメナスコナカイガラムシ、シマトウガラシワタカイガラムシ、モモタマナカタカイガラムシ、ハラアカコブカミキリ、ショクガタマバエ、キモンホソバノメイガ、ヨーロッパトビアメバチ、セイヨウナガチビアメバチ、サバクツヤコバチ、チチュウカイツヤコバチ、イサエアヒメコバチ、ハモグリコマユバチ、コレマンアブラバチ、ミコバチ（以上、未掲載種の情報提供）プラタナスグンバイ、アワダチソウグンバイ、キムネクロナガハムシ（以上、侵略性の情報提供）トゲムネミヤマカミキリ、クロテンオオメンコガ、ハスオビイラガ（定着状況についての情報提供）マルクビヒメカミキリ、アリガタシマアザミウマ、フタモンテントウ、ハイイロテントウ、ベダリアテントウ（リストから削除すべきとの意見提供）</p> <p>（日本応用動物昆虫学会・日本甲虫学会・日本昆虫学会）</p>	<p>寄せられた情報を含め判断をしたところ、現時点では日本で侵略的になる可能性が高いという情報は特に得られなかったため、掲載種（案）には含めませんでした。</p>
---	---	---

<陸生節足動物類>

	意見	対応状況と対応案
1	<p><定着状況・分布について></p> <p>◆定着状況の評価・分布に関する情報が提供された。</p> <p>ヤンバルトサカヤスデ</p> <p>（日本土壌動物学会）</p>	<p>指摘・情報を反映させました。</p>
2	<p><掲載種（案）以外の種の情報提供></p> <p>ククメルスカブリダニ、スワルスキーカブリダニ、チリカブリダニ</p> <p>（日本応用動物昆虫学会）</p>	<p>寄せられた情報を含め判断をしたところ、左記の種類は現時点では日本で侵略的になる可能性が高いという情報は特に得られなかったため、掲載種（案）には含めませんでした。</p>

<その他無脊椎動物>

	意見	対応状況と対応案
1	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。</p> <p>オオクビキレガイ、マダラコウラナメクジ、チャコウラナメクジと近似の2種、アシヒダナメクジ、ヒメリンゴマイマイ、ヒレイケチョウガイ、ホンビノスガイ、ヌマコダキガイの一種、</p>	<p>情報を収集、整理しリストに追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。</p>

	<p>ミステリークレイフィッシュ、ウスイロオカチグサ、アジアベッコウ <i>Macrochlamys</i> sp.、シュリマイマイ (ミヤコマイマイ、ダイトウジママイマイとされる個体群)、オナジマイマイ、コハクマイマイ、イスパニアマイマイ、 (日本貝類学会、日本土壌動物学会、日本ベントス学会、)</p>	
2	<p><リストへの追加> ◆リストに追加すべき種類が提案された。 キバウミニナ、アサリ、ハマグリ、ヤマトシジミ、ウネナシトマヤガイ (日本貝類学会)</p>	<p>情報を収集・整理しましたが、特に侵略性が高いとの判断はできなかった、もしくは今回のリストの選定の対象外のものであるため、掲載種(案)には含めませんでした。</p>
3	<p><侵略性等に関する情報、記載事項の修正・追加について> ◆侵略性等に関する情報の提供や、内容の修正・追加が指摘された。 ヨーロッパザラボヤ、 (日本水産学会、日本動物分類学会)</p>	<p>指摘・情報を参考にし、記載に反映させました。</p>
4	<p><掲載種(案)以外の種の情報提供> シマミズウドンゲ、シマメノウフネガイ、ミノウミウシの一種 <i>Trinchesia perca</i>、サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ、ヒラコウラベッコウガイ、ヒラマキミズマイマイ、メリケンスナガイ、コシタカオカモノアラガイ、ケショウオカモノアラガイ、コハクガイ、カガミガイ属の一種 <i>Pontoscolex carethrusus</i>、アシナガゴカイ、サクラミミズ、イソミミズ、アオキミミズ、フキソクミミズ、ヒトツモンミミズ、ハタケミミズ、<i>Amyntas corticis</i>、<i>A. gracilis</i>、<i>A. minimus</i>、<i>A. morrissi</i>、<i>A. micronarius</i>、<i>Polypheretima elongata</i>、<i>Menetus dilatatus</i>、<i>Phacosoma gibba</i>、<i>Dendrocaena pygmaea</i>、<i>Eiseniella tetraedra</i>、<i>Eukerria saltensis</i>、<i>Dichogaster bolau</i>、<i>Dichogaster saliens</i>、<i>Metaphile yamadai</i>、アオガニ、ハクライオウギガニ、 (日本土壌動物学会、日本貝類学会、日本ベントス学会、)</p>	<p>寄せられた情報を含め判断をしたところ、左記の種類は現時点では日本で侵略的になる可能性が高いという情報は特に得られなかったため、掲載種(案)には含めませんでした。元のリストから落ちていた日本に定着している種については公表する予定です。</p>

侵略的外来種リスト個別の種に関する学会等からの意見<植物>への対応案（概要）

	意見	対応状況と対応案
1	<p><侵略性に関する根拠></p> <p>◆侵略性が高いと判断される根拠や対象種に関するより詳細な記述が必要。</p> <p>ノルウェーカエデ、ホソグミ、栽培キク属、アツバキミガヨラン、コンテリクラマゴケ、ヒイラギナンテン、ピラカンサ類、モリシマアカシア、ナンキンハゼ、フサフジウツギ、ノハカタカラクサ、アメリカスズメノヒエ（バヒアグラス）、ムシトリナデシコ、園芸スイレン、セイヨウカラシナ、セイヨウアブラナ、オランダガラシ、ショカツサイ、ビワ、エニシダ、シロツメクサ、外来クサフジ類、ツルニチニチソウ、外来ノアサガオ類、ハルシャギク属、クワイモ、フランスギク、ハナニラ、ヒメヒオウギズイセン、コヌカグサ（レッドトップ）、カモガヤ（オーチャードグラス）、オニウシノケグサ（トールフェスク）、ドクムギ属、オオアワガエリ（チモシー）、オオバナアサガオ、ベンガルヤハズカズラ（ウリバローレルカズラ）、アツバチトセラン（サンスベリア）、パンノキ、フヨウ、テリハバンジロウ、フトモモ、シチヘンゲ（ランタナ）、コマクサ、オオバコ（日本造園学会・日本緑化工学会）</p>	<p>生態的特性など、国内外での侵略性に関する情報を収集し、追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。</p>
2	<p><侵略性に関する根拠></p> <p>◆侵略性が高いと判断される根拠や対象種に関するより詳細な記述が必要。</p> <p>ギンドロ、オオキバナカタバミ、シナアブラギリ、ヨウシュハッカ、マルバハッカ、アメリカハッカ、ネバリノギク、ユウゼンギク、ハルジオン、アメリカネムノキ（タイワンネムノキ）、イヌナツメ（インドナツメ）、シコンノボタン、ヒメノウゼンカズラ、（日本造園学会）</p>	<p>生態的特性など、国内外での侵略性に関する情報を収集したところ、現時点では日本で侵略的になる可能性が高いという情報は特に得られなかったため、掲載種（案）には含めませんでした。</p>
3	<p><リストへの追加></p> <p>◆リストに追加すべき種類が提案された。</p> <p>コケ植物（ウロコハタケゴケ、サビイロハタケゴケ、ミカヅキゼニゴケ）、アブラギリ（日本蘚苔類学会、日本生態学会）</p>	<p>情報を収集、整理しリストに追加しました。リスト掲載種の付加情報の公表時には、さらに具体的な内容を記載します。</p>
4	<p><リストからの削除></p> <p>◆広く利用されているなどの理由で掲載すべきではない。</p> <p>シロツメクサ（ホワイトクローバー）、トクサバモクマオウ（トキワギョリョウ）、シマスズメノヒエ（ダリグラス）、アメリカスズメノヒエ（バヒアグラス）、ムラサキツメクサ（アカツメクサ、アカクローバ）、外来クサフジ（ヘアリーベッチ）、コヌカグサ（レッドトップ）、カモガヤ（オーチャードグラス）、オニウシノケグサ（トールフェスク）、ドクムギ属、オオアワガ</p>	<p>本リストでは、生態系等への被害の観点から侵略性が大きいものを選定することとしており、その観点から評価を行いました。産業上重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、産業において同程度の社会的経済的</p>

	<p>エリ (チモシー)、ギンネム、ギネアキビ (ギニアグラス)、ナ ブアグラス (ネピアグラス、エレファントグラス) (日本造園学会・日本草地学会)</p>	<p>効果が得られるというよう な代替性がないものであつ て、その利用にあたっては留 意事項に沿って適切な管理 を行うべき種については、リ スト掲載種 (案) では「産業 上重要であり、利用にあつ ては適切な管理が必要な外 来種」として提示し、影響を 及ぼす、またはその可能性が 高い地域や環境をできる限 り具体的に記載するととも に、利用上の留意事項を示す ことで、生態系等に係る被害 を及ぼさない利用方法を推 進したいと考えます。</p>
5	<p><リストからの削除> ◆利用されているとともに、根拠としている文献に疑義がある ことから掲載すべきでない。 ハリエンジュ (ニセアカシア) (日本養蜂はちみつ協会)</p>	<p>利用に関しては上記 4 に記 載しているとおり。根拠に関 しては反証も含めて情報を 整理し、検討します。</p>
6	<p><情報提供> ◆生態的特性や利用状況などに関する情報が提供された。 ダリスズメノヒエ (シマスズメノヒエ)、バヒアグラス (アメ リカスズメノヒエ)、アカクローバ (ムラサキツメクサ)、シロ クローバ (シロツメク)、ヘアリーベッチ (外来クサフジ類)、 レドトップ (コヌブカグサ)、オーチャードグラス (カモガヤ)、 トールフェスク (オニウシノケグサ)、ドクムギ属 (イタリア ンライグラス)、オオクサキビ、チモシー (オオアワガエリ)、 ギンネム (ギンゴウカン)、ギニアグラス (ギネアキビ)、ネピ アグラス (ナピアグラス) (日本草地学会)</p>	<p>付加情報を整理する際の参 考にさせていただきます。</p>
7	<p><対象種以外> ◆対象種以外へも意見や情報の提供があった。 シダレヤナギ、セイヨウキツタ (イングリッシュ・アイビー)、 ヨウシュイボタ (セイヨウイボタ)、ハイウシノケグサ、メキ シコマンネングサ、キリ (日本緑化工学会)</p>	<p>寄せられた情報を含め判断 をしたところ、現時点では日 本で侵略的になる可能性が 高いという情報は特に得ら れなかったため、掲載種 (案) には含めませんでした。</p>

侵略的外来種リスト(案)についての各学会からの意見（その他の意見（概要））

	意見	対応状況と対応案
1	<p>◆<全体に関連して> 利用されている「有用性」、「社会的必要性」のある外来種についての配慮が必要。 (日本造園学会、日本緑化工学会)</p>	<p>「適切な管理が必要な三条上重要な外来種（産業管理外来種）」というグループを設け、その利用において留意点を示すことで、管理上の留意点を示すこととしました。</p>
2	<p>◆<全体に関連して> 選定に当たっては各分類群を専門とする各学会の意見を尊重とし、生態系への潜在的な影響の有無を基準として慎重に選定すべき。商業利用がなされていることなどを理由にリストから除外することがあってはならない。 (日本生物地理学会)</p>	<p>指摘通り観点から検討を実施しています。</p>
3	<p>◆<基本方針について> 生物の分類に対する基本的定義がなされていない。植物・動物の区分が出てくる一方で、「感染症・寄生物」という分類基準でない概念が導入されており、「生物種」についての基本的考え方ができていない。 (日本プランクトン学会)</p>	<p>「植物」「動物」という分類単位の外、「感染症・寄生物」というカテゴリーを設けたのは、寄主との関連が重要で、分類群としてのまとまりよりも、対策の類似性という観点から同じカテゴリーとしています。</p>
4	<p>◆<基本方針について> 「国内での定着」に関して、定着の定義を説明する必要がある。 (日本ベントス学会)</p>	<p>分類群及び生息する環境に状況が多様ですが、一般に継続して世代を繰り返していること示しています。</p>
5	<p>◆<基本方針について> 未導入種の対策を優先的に行うべき。選定の要件における記載が付け足し的であり、不十分。 (日本雑草学会)</p>	<p>未導入の種についても適切に検討を行うことがわかるように文章の修正を行いました。(資料3)</p>
6	<p>◆<基本方針について:要注意外来生物の位置付けについて> 要注意外来生物について、本リスト作成をもって解消し、また「選定の際の参考情報にする」の意味が不明である。 (日本緑化工学会、)</p>	<p>要注意外来生物の選定時の情報も参考として活用する旨を明記しました。(資料7-1)</p>
7	<p>◆<基本方針について:カテゴリの対応目標> 定着初期の対応目標について、分布拡大の阻止よりも国内からの根絶を第一に目指すべき。等 (日本造園学会)</p>	<p>ご指摘を踏まえて修正しました。(資料7-1)</p>
8	<p>◆<基本方針について:リストの見直しについて> 定期的なリストの見直しは必要であるが、その際に一度評価対象から外した種も必要に応じて検討する柔軟な対応とすべき (日本生物地理学会)</p>	<p>見直しに際してはご指摘を踏まえて対応します。</p>

9	<p>◆<基本方針について：リスト作成の効果について></p> <p>事業等で用いられている外来種に関しては発注者の意識の低さが大きな問題となっていると考えられる。行政や研究期間における代替種の開発、外来種を使用しない事業方法についての関心を高め、実施することや事業の仕様書等の改定を必要に応じて検討することを明記すべき。</p> <p>(日本緑化工学会)</p>	<p>基本方針において、各主体の参加・協力や利用抑制又は適切な管理、代替種の開発・普及等について記載をしているところ。各主体による取り組みが進むよう、行動計画とあわせて普及啓発を図っていきます。</p>
10	<p>◆<選定手順について：文案の修正についての提案・指摘></p> <p>文案の修正についての提案・指摘があった。</p> <p>(日本ベントス学会)</p>	<p>検討の上、必要な点について指摘を反映させ、文章の修正を行いました。(資料8)</p>
11	<p>◆<選定方法について></p> <p>海産浮遊生物では1) 日本に生息している土着種が十分に把握できていない。2) 海流等により移動するため、定期的に出現してるかの判断が困難。そのため、陸上生物とは切り離して選定方法を構築すべき。</p> <p>(日本プランクトン学会)</p>	<p>短期間で考え方を整理するのが困難のため、今後の課題とさせていただきます。</p>